

1 主題名 寛容・謙虚 2-(4)

2 資料名 長縄大会 (自作資料)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目2-(4)は「謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。」である。「小学校学習指導要領解説 道徳編 平成20年8月 文部科学省」では、この内容項目の指導に当たっては、相手の立場に立ち、広い心で、相手の過ちを許すことや相手から学ぶことの大切さを強調している。人間は、誰でも過ちを犯してしまうものである。成長の途上にある、小学校高学年の児童ならばなおさらそうであり、この段階の児童が、日常生活の中で、つい自分本位な物の見方や考え方をしてしまうことは容易に想像できる。そのような時に、自分も間違いを犯すことがあるという自覚を互いがもち、自分とは異なる立場や考え方を受け止める姿勢をもつことにより、人は広がりや深まりのある人間関係を築くことができるようになる。

この内容項目は、第5学年から新しく加えられたものであり、全学年までにはぐくまれてきた「思いやり」や「友情」の価値を、さらに発展させたものである。

(2) 児童の実態について

明るく、元気な学級であるが、時として謙虚な心を持ち、広い心で友だちと接することが難しい様子が見られる。相手の過ちを許すということは高次の価値判断が必要であり、大人であっても難しい場合が多い。この学級においても「あなたが大切にしていた物を無くされた(こわされた)場合」、「誰にも間違いはあるからすぐに許す。」と回答した児童は2人であった。この児童は、相手の過ちを受け入れるという寛容の精神が育ってきていると考えられる。次に「ちゃんと謝ってくれれば許せる」と回答した児童は19人と多数派を占めた。これについては、自分が大切にしているものを無くされたりこわされたりした場合に、「せめてひと言、謝罪が欲しい」という自然な感情を示している。次に、「かわりに、何かをしてくれるとかがないと許せない。」と回答した児童は3人、「やっぱり、ゆるせない」と回答した児童は7人おり、これが、発達段階を考慮すれば児童の本音であると考えられる。この併せて10人は、学級の約3分の1を占めており、人間関係をよくするためには、重点的に指導することが大切である。なお、以下に示した実態調査だけでは見えにくいですが、普段の観察から、人とのかかわりの中で謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする心を育てることも必要であると考えられる。

☆寛容に関する意識調査<平成23年10月17日実施；第5学年3組31人>

質問	
あなたが大切にしていた( )を、友達が無くして(こわして)しまいました。もう、元には戻りません。そんな時の、あなたの行動に一番近いのはどれですか？ ※( )にはあなたが一番大切にしているものを当てはめて考えてみてください。	
回答	
誰にも間違いはあるからすぐに許す 2人	<理由> わざとではないと思うから、なんにでも怒っていたらきりが無いから。
ちゃんと謝ってくれれば許せる 19人	<理由> 友達ももし自分がこわしてしまったら謝れば許してくれると思うから、こわれてしまったものはしょうがないから、など。
かわりに、何かをしてくれるとかがないとゆるせない 3人	<理由> 最近ハマっているものなので(安いものでいいから)弁償してもらいたい、なんかくれたら許す、自分が大切にしていたものこわされたり無くされたりしたらだれだっておこるから、など。
やっぱり、ゆるせない 7人	<理由> 一番大事なものだから、弁償してもらいたい、だいなしになってしまうから、など。

(3) 資料について

本資料は、授業者の自作資料である。小学校で広く行われている、連続八の字跳びを題材にしており、本校児童も身近に感じることができる。ただし、直接の生活経験と結びつき過ぎると、連続八の字跳びが苦手な児童はトラウマを感じることも考えられるため、練習時間の設定や、大会の開催時期などの細部を変え、あくまで物語として読むことができるように工夫した。

授業では、まず、学級委員として張り切る主人公の「やる気」に共感する気持ちを引き出した。次に、失敗が多いクラスメイトに怒りをぶつける主人公を通して、一方的な見方で、人を傷つけてしまう、という人間の弱さに共感させたい。そして、主人公が、一生懸命に練習に取り組んでいないと決めつけていたクラスメイトが、実は陰で練習をがんばっていたという事実を知ることによって、相手の立場に立って物事を考える視点の大切さに気付く。その過程を通して、寛容の価値に迫りたい。

4 本時の指導

- (1) ねらい  
主人公の心情を理解することを通して、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることを育てる。
- (2) 準備  
読み物資料、ワークシート、挿絵、発問カード（掲示用）
- (3) 展開

流れ	学習活動と発問	予想される児童の反応	教師の支援
ふれる	1 自分たちの寛容・謙虚の心について考える。  ○みなさんは、友達の間違いを許せる方ですか、許せない方ですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・納得できない。</li> <li>・誰にでも間違いはあるから仕方がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値にふれ関心をもたせる。</li> </ul>
↓ 深める	2 読み物資料「長縄天会」を読み話し合う。  ○謙一にアドバイスしたのはどうしてでしょう。  ○激しい言葉を謙一になげつけたのは、どうしてでしょう。  ◎「今日も、一緒にがんばろう！」という言葉を受けて隆は、どう思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばって欲しいから。</li> <li>・優勝したいから。</li> <li>・友達だから。</li> <li>・リーダーの責任だから。</li> <li>・一生懸命やっているのに、上手くならないから。</li> <li>・謙一のせいで、優勝できないかもしれないから。</li> <li>・他のクラスがよい記録を出して焦ったから。</li> <li>・許してもらえてよかった。</li> <li>・謙一は、心が広いな。</li> <li>・これからは、相手のことを考える人間になりたい。</li> <li>・二度と謙一にひどいことを言わないぞ。</li> <li>・謙一、ごめん。そして、ありがとう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公のやる気が理解できるようにする。</li> <li>・主人公が、いつの間にか自分本位な考えにとらわれていることに気付かせる。</li> <li>・机を向かい合わせの形態に変え、「リレー方式」で児童が主体的に話し合えるようにする。</li> <li>・児童の発言をメモし、最後に類型化して価値の自覚が深まるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>☆期待する姿が見られなかった場合の指導 個別に声かけをし、謙一は、隆がひどいことを言った相手であることを確認し、手がかりを与える。</p> </div>
↓ 見つめる	3 授業を振り返り、感じたことを話し合う。  ○今日の話振り返って、一番心に残った場面と、その理由を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隆が謙一に許された場面。広い心は大切だから、自分も身に付けたいと思った。</li> <li>・隆が謙一に許された場面。広い心は大切だと思った。</li> <li>・隆が謙一に許された場面。いい話だなと思った。</li> <li>・謙一がその場に立ちつくした場面。きつく言われてもがんばる隆に感動した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机を一斉形態にもどし、落ち着いた雰囲気でもどし、振り返りを行えるようにする。</li> <li>◎広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることを育ったか。（ワークシート、発表、観察）</li> </ul>
↓ つなぐ	4 教師の説話と、「心のフニト」P55の「相手の立場に立つて」の朗読を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員静かに、教師の説話と朗読を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる考えや意見を受け止めることのよさを感じられるようにする。</li> </ul>

## 長縄大会

バシッ、バシッと地面を打つ長縄の音。土煙が舞い立ち、グラウンドに、みんなの聲がこだまする。今年も、長縄の季節がやってきた。隆たちの学校は、毎年、十二月の長縄大会で、全校児童が熱く燃え上がる。クラス対抗の連続八字跳びで、クラスの全員が跳んだ回数を競う。今年、学級委員として長縄大会を迎える隆は、特に張り切っていた。「みんなをまとめて、クラスを優勝に導かなくては。」と思うと特に気合いが入った。

「そうじゃないよ、謙一。縄が、地面に着いたら、すぐに入らないと。」  
「うん、惜しいんだけど、まだ、ちよつと入るのが遅いかな。怖がっちゃだめだよ。」

隆のクラスは、謙一がつかえて縄が止まってしまふ事が多い。謙一は、おとなしい性格で、黙々と練習に取り組んではいるが、なかなかコツをつかめない。隆は、そんな謙一に、一生懸命アドバイスを繰り返した。

大会本番まで、あと二週間に迫ったある日、そろそろペースをあげて記録を狙って行こう、という意見が出た。しかし、目標回数にはなかなか届かない。どうしても謙一のところまで、つかえることが多いのだ。

「謙一、大丈夫、大丈夫。」

「おちついて。縄を怖がるな！」

隆を中心に、みんなが励ましたり、コツを教えたりするが、謙一はいつこうに上達しない。向こうで隣のクラスが新記録を出し、大喜びしているのが見えた。ついに隆の怒りが爆発する。

「いい加減にしろよ！何回、同じ失敗をするんだよ。みんな一生懸命にやってるんだからな。謙一も、ちゃんとやってくれよ！」

今まで、やさしくアドバイスをしてきた隆だが、初めて、激しい言葉を謙一に投げつけてしまった。

その日、帰宅した隆は、夕食後、ボーツとテレビを見ていた。縄跳び大会の練習の疲れに、学級委員としての気疲れが加わり、体を動かす気になれない。すると、母の言葉がとんできた。

「隆、いつまでテレビを見ているの。宿題は終わったの！」

隆は、疲れとイライラで、思わず母に言い返した。

「うるさいなあ！今、やろうと思っただよ。俺だって疲れてるんだ！人の気も知らないで！」カツとなった隆は、おもわず玄関から飛び出した。

夕暮れの町を歩いていると、なんだかため息が出た。縄跳びの練習はうまくいかないし、お母さんはうるさいし……。(学級委員は、大変なんだぞ。誰も、おれの苦労なんかわかってくれないんだ……)

その時、不意に歩道の向こうから隆を呼ぶ声が聞こえた。

「隆、どうした？」

見ると、父が立っていた。今、会社の帰りらしい。

「うん、ちよつとね・・・。」

隆は、家で母に怒られてムシヤクシヤしたことや、学級委員は縄跳びでクラスをまとめるのが大変だということや、歩きながら父に話した。

「おれは、一生懸命やってるのになあ。」

そんな話をしながら、二人が近所の公園までさしかかった時、公園から人の声と、運動をしているらしい物音が聞こえてきた。

「あれ・・・、謙一？」

見ると、奥の方で謙一が、謙一のお父さんと、四年生の弟に手伝ってもらいながら、長縄の練習をしているのが見えた。

「ああ、謙一くんって、隆と同じクラスだったよな。」

（えっ。）父の言葉に、なぜか隆はどきつとした。

「この前、会社の帰りに謙一くんのお父さんと一緒にいっしょになったんだよ。謙一くんのお父さん、『うちの謙一が、今年は縄跳びで迷惑めいわくをかけたくない。隆くんが、一生懸命に教えてくれるからがんばるんだ、って言って、私わたしを夜の公園で練習に付き合わせるんですよ。運動が苦手な謙一が、こんなに一生懸命やるなんて驚おどろいてるし、隆くんには本当に感謝かんしゃしてます。』なんて言ってたよ。謙一くんは、

お前の気持ちに答えようと、がんばっているんだな。たいしたものじゃないか。」  
隆は、思わずその場に立ちつくした。一言も発することができなかつた。

次の日、朝練習のため、隆は、いつもより早く家を出た。なんだか、むしろにグラランドに行きたかつた。……謙一は来るだろうか？来たなら、自分は何て言葉をかければいいだろうか？謙一は、昨日までのように自分と接<sup>せつ</sup>してくれるだろうか？……胸<sup>むね</sup>がドキドキした。

学校に着くと、誰かがもう登校して練習場所に立っている。……謙一だ。向こうを向いていて、隆には、まだ気が付かない様子だ。隆は、おそろおそろ、声をかけた。

「……おはよう。」

気がついた謙一は、振り返<sup>ふ</sup>って、隆に笑顔<sup>えがお</sup>を見せた。

「謙一、おれ……。」

「隆くん、おはよう。今日も、一緒にがんばろう！」

何とも言えない、さわやかな空気が、二人をつつんだ。









